



長崎県 南島原市

本田 峻平

年齢 : 34歳

営農類型 : 果樹238a

(温州ミカン)

経営構成 : 本人のみ

就農のきっかけ

前職の時に農業に関わる機会があり、自然の中で働くことや地域に根ざした生き方への憧れを持ち、次第に農業への関心が芽生えていきました。これまでは会社員として働いていましたが、地域に貢献できる仕事をしたいと思っていたこともきっかけで、家族の後押しもあり、就農することにしました。

就農にむけての取組について

南島原市果樹フロンティア協議会で農業研修を2年間受講しました。

1年目は市内4つの生産団体全ての樹園地で実地研修や栽培、経営に関する座学を受講しました。生産者それぞれの栽培方法を学べたことや、生産組合が異なる生産者との繋がりをつくることができたことが貴重だと感じています。

2年目は高齢により規模縮小される園主さんの樹園地の一部を継承（就農）候補地として実地研修を行いました。それにより「居抜き」の場合の課題である、既存の果樹の状態や管理方法を十分に把握・確認すること出来て、適切な手入れについて、園主の指導のもと、研修機関中での引継ぎにより収穫のタイムラインを短縮できる点は大きなメリットとなりました。

今でも、研修機関の定期ミーティングに参加し、現在の受講生との情報共有や、研修時の先生からのアドバイスを受けるなどフォローアップをいただいています。

就農時に活用した支援

●新規就農者育成対策事業（就農準備・経営開始資金、経営発展支援事業）、青年等就農資金などを活用

就農準備資金は、主に生活費や交通費、就農時の肥料等の費用として活用しました。正直なところ、支援金が無ければ就農初期の肥料や防除資材の購入や研修中の生活費の確保が難しかったと思います。その他市の独自の補助金や経営発展支援事業での機械の導入、青年等就農資金の無利子融資等を活用しました。ただ、予算の規模が小さくないと使えない補助金が多いので、個人で少額でも活用できるような補助制度があれば良いなと感じています。

現在の課題について

異常気象による病害虫の発生や鳥獣害被害、人手不足などが今後の課題です。特に中山間地域では灌水設備がないので、乾燥時期の対応が大変です。

新規就農者に向けて

新規就農は困難も多いですが、農作物が成長し、収穫間際の光景を見ると農業の醍醐味を実感します。また、地域のコミュニティに積極的に参加することが大切です。地道に続けることで安定した経営が見えてくると思います。

今後の目標と取組について

まずは、農業経営を安定させることです。長期的には研修仲間と力を合わせて、かつてのみかん栽培が盛んだった畑を再び蘇らせるための開拓に取り組んでいます。共用の倉庫や畑の整備に加え、休憩スペースの設置や水タンクの導入など働きやすい環境づくりを進めていきます。この地域の農業の魅力を再び広め、多くの人にみかんの美味しさを届けられる日を目指して、仲間たちとともに汗を流しています。